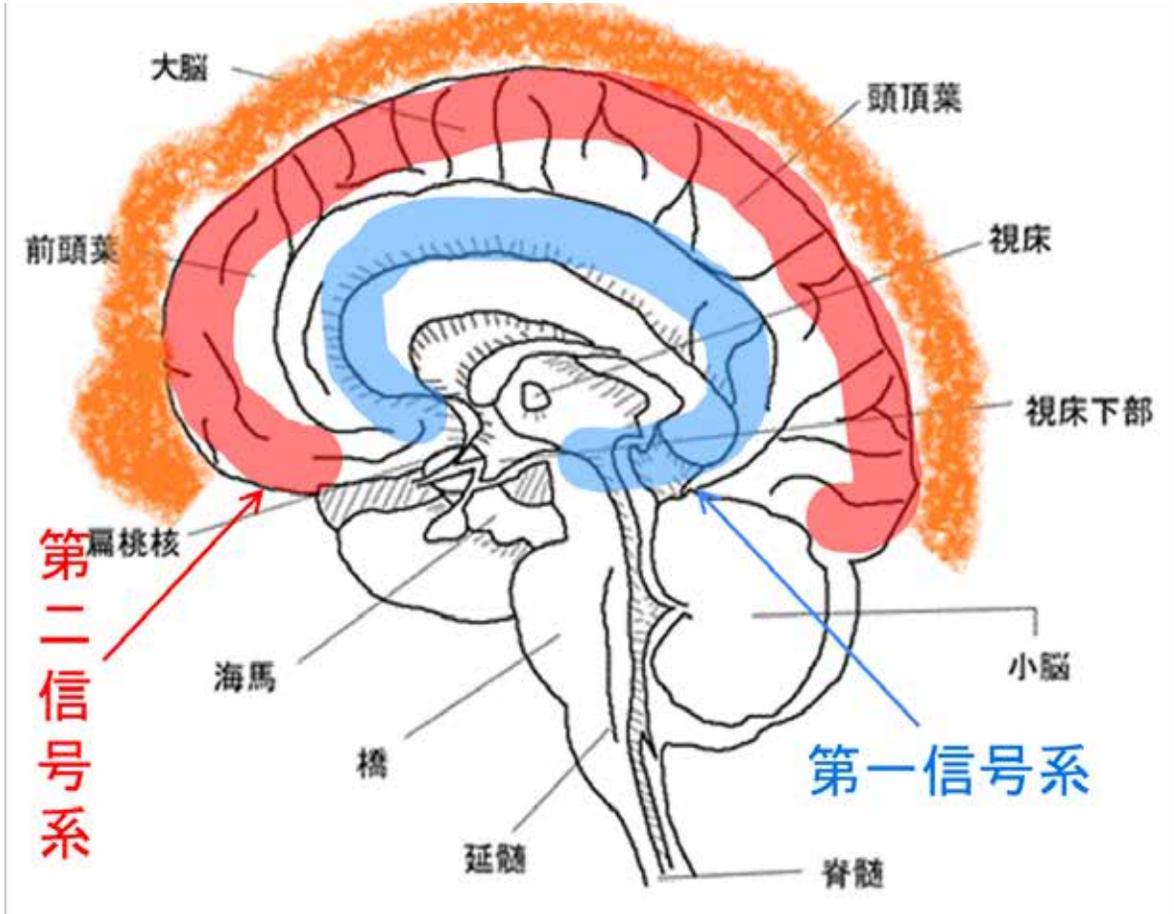


# 薬物乱用者に対する条件反射制御法と 連携

1. ヒトは二つの中枢をもつ。



これらはときに協調して、ときに無関係に、ときに摩擦して作動する。行動の方向に摩擦があれば一方が優勢になり、他方は抑制される。

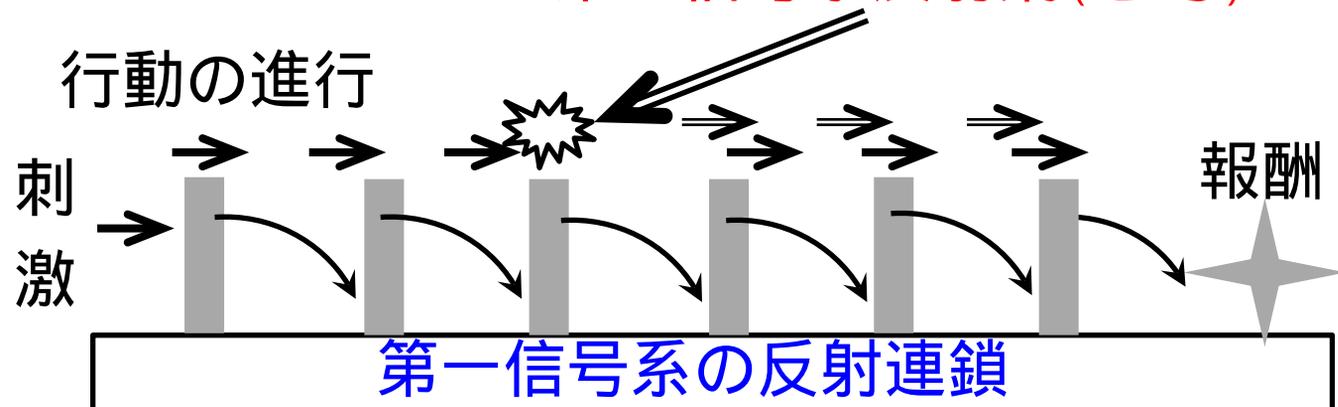
## 第一信号系

動物もヒトももつ  
 思考しない  
 反射が連続して、  
     自律神経、気分、動作を司る  
 刺激: 反応 = 1 : 1 で行動は定型的  
 過去の成功を再現させる  
 防御、摂食、生殖を行い、  
     生物種全体の進化を支える

## 第二信号系

ヒトだけがもつ  
 思考する  
 評価、計画、予測、  
     決断し動作を司る  
 刺激: 反応 = 1 : 多で行動は自由  
 未来を成功させる  
 個人の生き方を中心に考え、  
     文化を支える

## 2. 第一信号系の反射連鎖の成立および第二信号系との関係 第二信号系反射網(思考)



薬物を手し、準備し、摂取した行動の後に薬理作用が生理的報酬を生じることを反復すると、薬物を手し、準備し、摂取する行動は反射連鎖に司られる定型的な行動として定着する現象が進む。

反射連鎖で司られる行動は、方向の定まったドミノの連鎖的な転倒のように、瞬間の動作が連続したものとして理解できる。

第二信号系反射網(思考)が不適切であると判断すれば、第一信号系の反射連鎖による行動を中断しようとすることがある。

第一信号系の反射連鎖の作動性が強ければ、第二信号系反射網は負ける。つまり、「わかっちゃいるけど、やめられない」という現象が生じる。

## 3. 問題行動を反復する者の要素

### 1) 進化システムの過作動

特定の行動に関して、第一信号系の反射連鎖の作動性が過度に高くなっており、第二信号系による抑制に優る状態。

### 2) 社会性の低下 自立していない生活

考え方の変化や不良な人間関係

## 4. 条件反射制御法 (CRCT)

下は閉鎖環境で1)～3)を行い、社会内で4)を行うことを想定している。

全てのステージを社会内で行うならば、1)はより長期となり、2)及び3)は処遇を整えて慎重に行う必要がある。

### 1) 制御刺激設定ステージ

期間と頻度: 2週間程。負の刺激の回数は1日に20回を目指す。

作業: 言葉「私は今、 (標的行動)はやれない、大丈夫」と簡単な動作。

動作の例: 手を胸にあて、離して親指を外で拳、次に中で拳

効果: 生理的報酬獲得行動をとめる反応を作る刺激が成立する。

### 2) 疑似ステージ

期間と頻度: 2週間程。疑似の回数は1日に20回を目指す。

このステージで負の刺激は1日に5回程度。

作業: 標的行動を意図的に行う。最後に報酬はない。

当初: 反応が強い。中断で苦惱。負の刺激で安堵。

効果: 反復により反射の作動性が低減する。

長所: 疑似物質および道具は刺激としての作用が減弱しない。

短所: 受ける刺激が疑似に限定され、日常の刺激を網羅しない。

### 3) 想像ステージ

期間と頻度: 2週間程。想像は1日に20回を目指す。

このステージで負の刺激は1日に5回程度、疑似は2回程度。

作業: 日常行動から続く標的行動を閉眼で回想。最後に報酬はない。

当初: 反応が強い。中断で苦惱。負の刺激で安堵。

効果: 反復により反射の作動性が低減する。

長所: 多様な経緯で日常から報酬までにある多くの刺激を網羅する。

短所: 反復により刺激が減弱かつ単純化し、温存される反射がある。

### 4) 維持ステージ

期間と頻度: 一生。1日に負の刺激は5回程度、疑似と想像は2回程度。

効果: 負の刺激の効果を保つ。

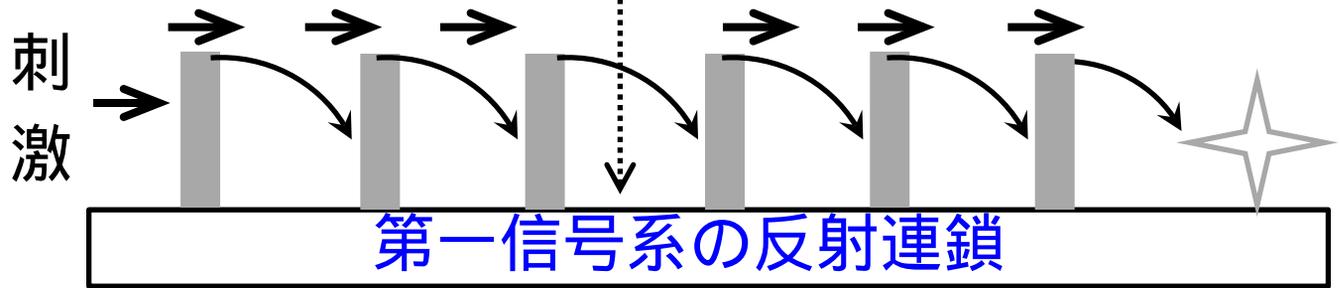
標的とする反射連鎖の作動性を低減したままに保つ。

## 5. 制御刺激の設定と利用

欲求等をとめる制御刺激を作って、使う。

### 1) 始めの頃

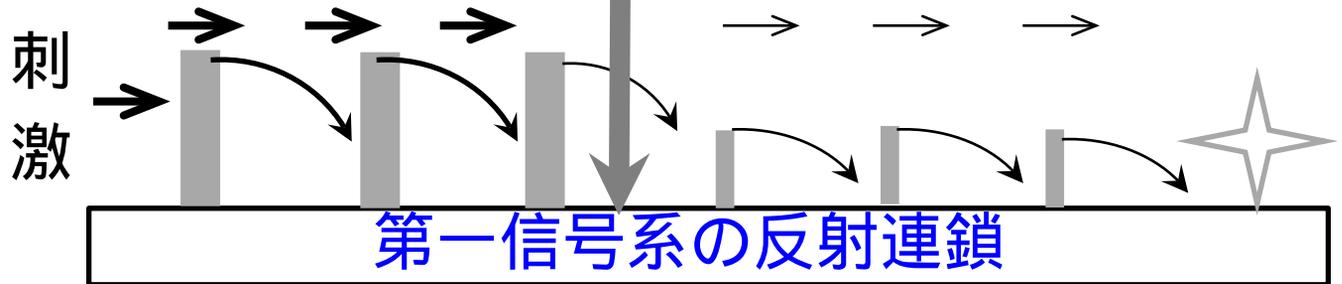
行動の進行



制御刺激の後の反射連鎖は生理的報酬を獲得しない。  
進化を支えない反射連鎖は抑制される

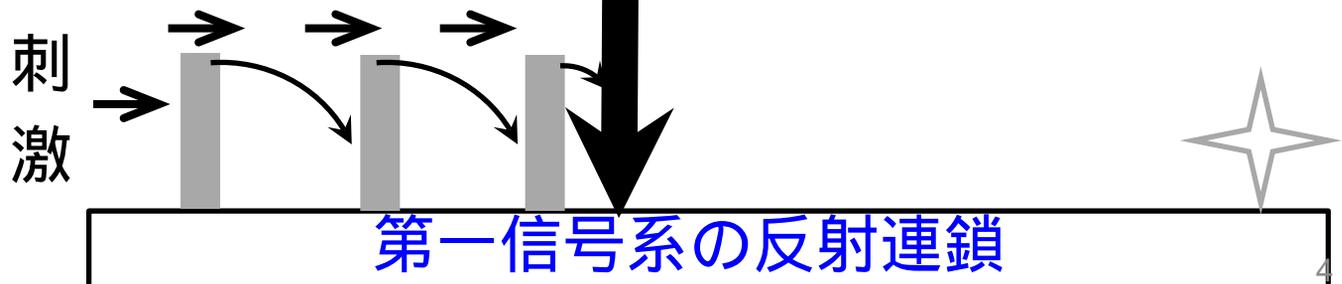
### 2) 反復後の早い頃

行動の進行



### 3) 十分に反復した後

行動の進行

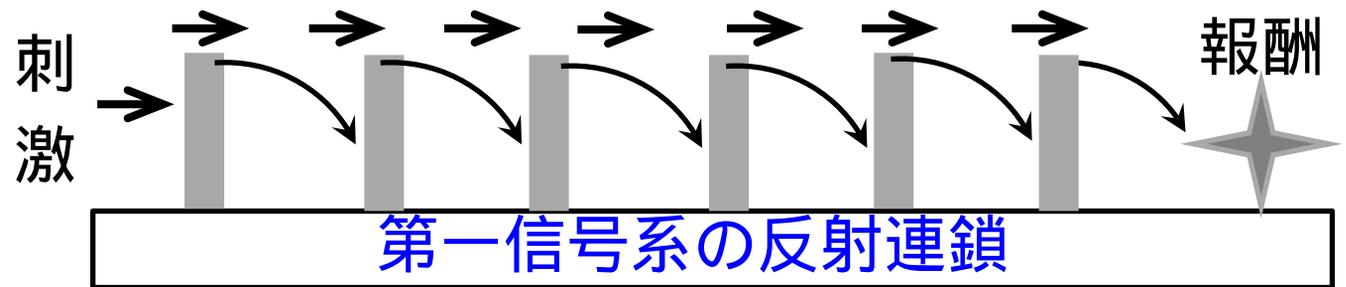


## 6. 疑似と想像

欲求自体を弱くする。あるいはなくす。

1) 最後に報酬があれば反射連鎖は強化される。

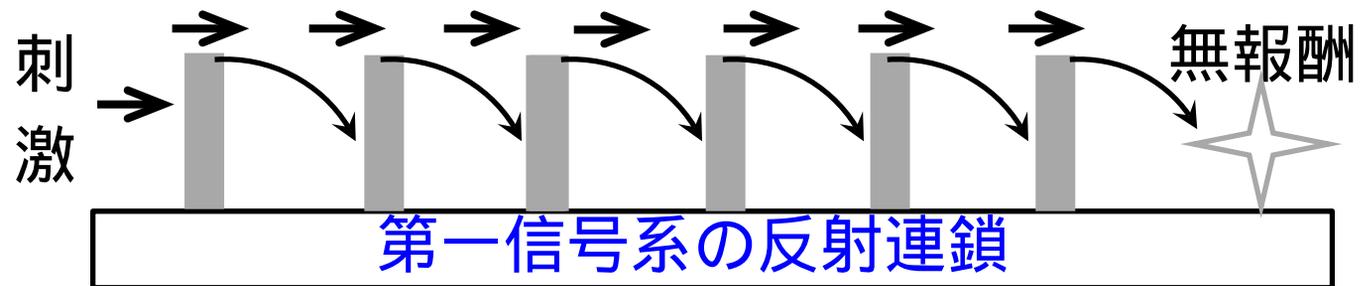
### 行動の進行



2) 反射連鎖の終末に報酬を与えない。

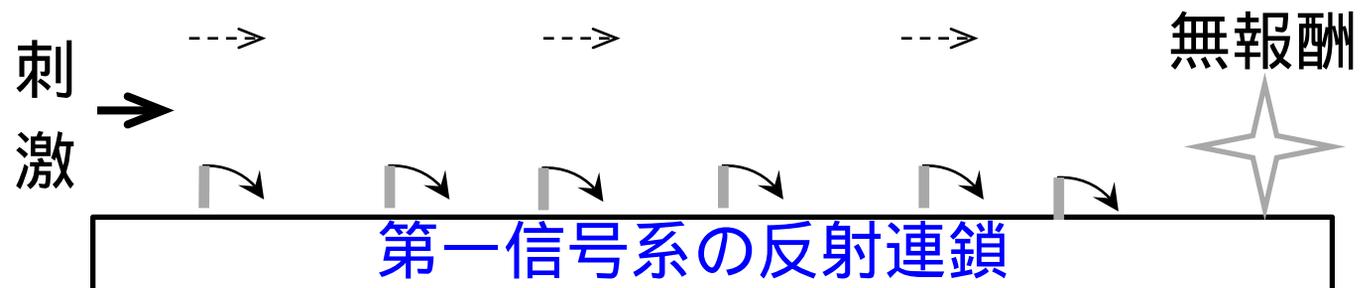
下の行動を第二信号系で反復する。当初は第一信号系も刺激を受けて作動する。

### 行動の進行



3) 進化を支えない反射連鎖は抑制される。

### 行動の進行



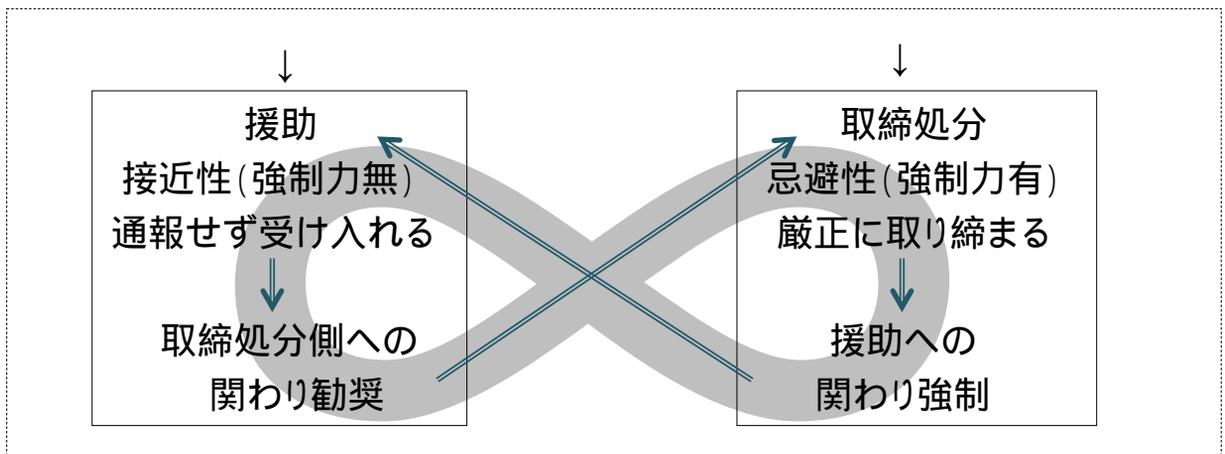
## 7. 反復傾向のある違法行為に対する 連携体系

ヒトの中樞は第一信号系と第二信号系の二つであり、それらの両方に、援助側と取締処分側の連携は効果を発揮できなければならない。

各領域は次のような態勢をもつべきである。

援助側(左)は通報せず、薬物乱用者を受け入れ、治療および訓練を提供し、同意した者は取締職員と面接させ、法による抑止力を処遇に設定する。

取締処分側は検挙を背景にした強力な指導をし、可能な者を検挙し、処分において、刑罰と必要に応じて治療および訓練を強制する。



## 8. 連携の意義、連携を成立させる言葉のやりとり

1) 連携の目的は、関係機関が集まり、機能を多く準備することである。従って、同一の目的に向かい、各機関は他とは異なる機能を発揮するべし。

また、連携においては自機関の役割を明確に宣言し、他領域に対して、その機能の発揮を尊重し、期待しなければならない。

つまり、薬物乱用対策のための 連携成立のためには各領域は次のように宣言するべきである。

2) 各機関からの理想的な言葉

援助側「我々は規制薬物乱用者を通報しません。まずは、治療あるいは訓練を提供します。同意した者は取締職員に面接させます。取締処分側の職員の方は、規制薬物を乱用したら検挙するという態勢で厳正に指導し、証拠が揃ったら検挙して、刑罰と治療、訓練を提供して下さい。」

取締処分側「我々は検挙する機能を背景にして規制薬物乱用者に乱用をやめさせようとしています。証拠が揃えば、検挙し、刑罰や治療、訓練を与えます。援助側の方は通報しないで下さい。多くの薬物乱用者を引きつけて、同意した者を我々に合わせて下さい。」